

【第 664 号】

発行日 2025年9月16日

発行責任者 喬木村公民館長

林 司

編集責任者 公民館広報部長

池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社

公民館報

題字：真浄寺書道会 奥田 心優

写真：喬木カメラクラブ 仲田 博彦

のつどい

夢に向かって!



典では、市瀬村長をはじめとした来賓より祝辞が贈られ、代表者
歩ずつ進んでいる様子、そして親への感謝の言葉が紡がれた。会場
も見られた。また祝宴では、竹やの五平餅や喬木村の食材を使った
タルトやパウンドケーキなど地元のおいしいものが並び、彩を添え
宴が進むにつれ場もほぐれ、あちこちで笑い合い、また担任を交え
一憂しながら、久しぶりの故郷でのひと時を楽しんでいた。



実行委員のみなさん

実行委員長 / 土屋 洋貴

- ・サルチホソダ 莉羅
- ・松澤 知季
- ・知久 幸多朗
- ・藤井 琢斗
- ・野村 咲絵
- ・松澤 興吾



ビンゴで楽しく!

#最高の一日



志げ子なす、くりん豚、
桃など地元の食材を使った
サンデイサンドの
サンドイッチ





二十歳

令和7年度

それぞれの



8月15日、喬木村福祉センターにおいて令和7年度二十歳のつどいが開催された。式による意見発表が行われた。しっかりとした意志を持ち、夢に向かって悩みながらもーには小学校時代に授業で作った阿島傘も飾られ、玄関先では懐かしく写真を撮り合う姿サンデイサンドのサンドイッチ、農園野風のイチゴとレモンのシードル、しろくま座のていた。中学卒業以来久しぶりに会う同級生も多く、最初は硬い表情も見られたが、祝で語り合う姿も見られた。実行委員企画のビンゴ大会では、読み上げられる数字に一喜

式典の様子



祝賀会の様子



恩師との再会を祝って

1組代表あいさつ 黒澤凌我さん



本日は私たちのためにこのような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。また、市瀬村長をはじめ、ご来賓の皆様、そして多くの方々のご尽力により、このかけがえのない節目の日を無事に迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。

振り返ってみると、約6年前までは、この喬木村で皆と一緒に学び、時には思い切りふざけて笑ひ合い、毎日を楽しんでいました。本当に、時間が過ぎるのはあっという間だと感じます。そして今になって、あの頃、純粋に学び、純粋に仲間と過ごした日々が、どれほど貴重でかけがえのない時間だったのかを、改めて実感しています。

中学卒業後、私はラグビーで全国優勝をするために、自分が行ける中で一番ハードで厳しいと言われていた高校に進学しました。結果から申し上げますと、私はその厳しい環境に打ちのめされ、最後までレギュラーになることはできませんでした。当時の私は、強い劣等感に押しつぶされそうになり、「自分は何のために生きているのだろう」と毎日のように自分に問いかけていました。

しかし、高校最後の全国大会、準決勝で惜しくも敗れた後のロッカールームで出場していた仲間達が、涙ながらに「お前がいなかったら俺はプレーすらできなかった。本当にありがとう」と言ってくれたのです。私は、チームのためにと毎日巻いていたテーピングやトレーナーとしてのサポートが仲間の

力になっていたことを、その言葉で初めて知りました。その瞬間まで、自分を責め続けることしかできなかった私の心は大きく変わりました。「俺は、俺を支えてくれた人たち、そしてこの仲間たちに恩返しをするために生きよう」。そう強く決心できたのです。そして今、私は名古屋の専門学校で柔道整復師という資格の勉強をしています。簡単に言えば、接骨院の先生や、ケガを治すプロの資格です。来年からはこの資格を活かし、仲間が所属している大学のラグビー部でトレーナーとして働きます。人生を通して「超一流のトレーナー」になることが、私の夢です。その第一歩を、この上ない最高の舞台で踏み出せることを心から幸せに感じています。

これからの人生をかけて、私がお世話になった人たち、そして大切な仲間たちに、少しでも恩返しができるよう、日々努力を重ねていきます。

この発表のテーマである「どんな大人になりたいか」に答えるなら、私は、やりたいと思ったことに全力を注ぎ、最後まであきらめずにやりぬく大人になりたいと思います。大きな夢を語れば、多くの人に「無理だよ」と言われるでしょう。しかし、一度きりの自分の人生を使って、夢中になって努力し続ける大人は、心から尊敬に値し、とてもかっこいい私は思います。私もそんな大人になれるよう、目の前のやるべきことに真摯に向き合い、全力で努力しつづけることを、ここに誓います。

どうかこれからも、温かいご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではありますが、以上を持ちまして、代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

2組代表あいさつ 塩澤美空さん



本日は、私たちのために、このような盛大な二十歳のつどいを催していただきまして、誠にありがとうございます。先ほどは市瀬村長様、喬木村議会下平議長様より、お祝いと激励の言葉をいただき感謝申し上げます。また、ご多用の中、多くの来賓の皆様にご出席いただき新成人一同、深く御礼申し上げます。

この自然豊かな喬木村に生まれ、小・中ともに学び、遊んだ仲間達と本日、新成人として誓いを共に出来る事を心から嬉しく思います。これも、今まで私たちを育ててくれた両親や家族、そして支えてくださった先生方や地域の皆様のおかげと感謝しております。

さて、私たちは二十歳を迎え、すでに職業に従事している者や、学業に励んでいる者など立場は様々ですが、一人一人が大人としての自覚と責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って邁進する覚悟しております。

私事ではございますが、わたくしは高校卒業後、県内の大学に進学し看護や保健師について学ばせてもらっております。県内であるため頻りに帰省しているのですが、その度に近隣の方が「おかえり、元気だった？」と声をかけてくださいます。地域の皆さんの優しい言葉や温かさに触れるたびに、ここが故郷（ふるさと）で良かったと感じる事ができます。

大学に入り、一から看護学や保健学を学び、課題や演習に追われる毎日ではありますが、仲間たちと協力し、切磋琢磨しながら楽しく学べることがあります。その中で、患者さんへの正確なケアや、行き届いた配慮だけではなく、信頼関係の構築も大切な事だと学びました。誠実、共感、思いやり、そして尊重。こうしたコミュニケーションは看護の世界に限らず、社会生活においても大切な事です。今後、良い信頼関係が築けるよう一層の努力をして参りたいと思っております。

看護学は手技だけでなく、概論の中で理論を学びます。数多くいる看護の理論家の中にアメリカ合衆国のエリック・ホーンブルガー・エリクソンという人物がおります。彼は、心理学者、発達心理学者、精神分析家で「心理社会的発達理論」と「アイデンティティ」の概念を提唱しました。エリクソンの心理社会的発達論では、今の私たちは発達段階の中で、青年期にあたります。青年期とは、身体的・精神的に大きな変化が起こり、自己の存在や生きる意味を探索する時期です。自分が何者であるか、どのように生きていくかを模索し、アイデンティティを確立することが主な課題となります。このような課題を乗り越えるためには、自己理解を深めること、多様な経験をすること、他者との関係を築くことなどが挙げられます。私達はこれから多くの方に出会うと思っております。その中でこれらの課題を乗り越え、未来に繋げていけるよう、日々努力して参りたいと思っております。

最後になりましたが、まだまだ未熟な私達です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。そして、多くの方々への感謝の気持ち、そして成人としての決意を忘れず、力強く、優しく、たくましく生きていくことを誓って、新成人代表のあいさつとさせていただきます。

実行委員長 土屋洋貴さん

本日は二十歳という節目の年を迎えた私達に、このような素晴らしい式典を開催していただき誠にありがとうございます。

ご多用のところ、市瀬村長をはじめ、ご来賓の皆さま、恩師の方々にご臨席いただきうれしく思います。二十歳の集いを開催するにあたり、多くの方にお力添えをいただき、本日を迎えることができました。深く感謝申し上げます。

さて、私達が中学校を卒業したのは五年前の春のことです。あっという間に過ぎた日々ではありますが、皆さま、それぞれの思い出の詰まった時間を過ごしてきたことと思います。

また、五年ぶりに会う友人や、お世話になった先生方とお会いすることができ、嬉しい、懐かしい気持ちです。

成人の一人として歩み始めたわたくしたちですが、未熟な面が多くあります。その中でも自らが選択した場所で日々努力し、成長できるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、本日まで支えてくださった保護者の方、温かく見守ってくださった地域の皆様方、お世話になった多くの方に感謝申し上げます。

簡単ではありますが、以上で実行委員長の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

公民館文化部楽遊塾

川遊び体験

7/19(土)
開催

今年度第1回公民館楽遊塾が開催され、氏乗の田舎道周辺の川で思いきり遊びました！今回で3回目を迎える大人気の企画には、総勢49名が参加。自然の中での外遊びの楽しさを存分に満喫しました。

イベントはまず、氏乗地区のみなさんによるレクチャーからスタート。川遊びの楽しみ方や安全な過ごし方、川に暮らす生き物について教えていただきました。その後はメインイベントの一つ、川魚のつかみ取り！初めての体験に子どもたちは大はしゃぎ。無我夢中で魚を追いかけて、歓声をあげながら捕まえていきました。

続いては、捕まえた魚をさばく体験です。めめって苦戦しながらも、お家の人に手伝ってもらい、カッターで見事にさばくことができました。さばいた後は串に刺して塩をまぶし、炭火で焼き上げます。香ばしい皮とプリプリの身は、自分で捕ってさばいたからこそ格別の味！みんなで笑顔ながら頬ばりました。

お腹がいっぱいになった後は、いよいよ川へダイブ！ひんやりと澄んだ川の水が夏の暑さを一瞬で吹き飛ばし、「気持ちいい！」「涼しい！」と大歓声が上がりました。子どもたちの笑顔と笑い声があふれる、最高に充実した一日となりました。

公民館文化部では、これからも楽しい体験イベントを企画してまいります。次回の企画もどうぞお楽しみに！

【お子さんの感想】

- ・魚を捕るのがたのしかった
- ・魚をさばくのが楽しかった



令和7年度

8/30(土)実施

第18回 武田信玄狼煙リレーが実施されました

加々須茶臼山



富田城山



8月17日(日) 開催

第28回 椋文学夏期講座 「椋鳩十 若き日の読書・その文学への影響」

8月17日(日)に第28回椋文学夏期講座を開催しました。本年度は、前椋鳩十記念館・記念図書館長である菅沼利光氏をお招きし、「椋鳩十 若き日の読書・その文学への影響」と題したご講演をいただきました。

今回の講演では、若き日の椋鳩十の「読書」が、山窩物語(さんかもものがたり)にどのような影響をあたえたかについてお話をお聞きしました。

具体的には、椋鳩十が愛読したヨハンナ・スピリの「ハイジ」、ツルゲーネフの「猟人日記」、ジャック・ロンドンの「南洋物語」等の作品が、その後の創作活動にどのような影響を与えたかについて、これら作品と椋鳩十の作品とを関連づけながら、お話をいただきました。

椋鳩十が小学生のときに出会った「ハイジ」の場合では、椋鳩十が書いた作品に見られる自然描写の「金色」の表現や、必ず報われるというストーリー展開、子どもが大人に向けて物語を読むことの喜び等が影響していることを教えていただきました。また、椋鳩十が提唱し、全国的な運動となった「母と子の20分間読書運動」の発想の源になったこともお話しいただきました。

まさに、椋鳩十が若き日に読んだ作品の数々は、その後、作家として精力的に執筆活動や読書運動等に取り組んだ椋鳩十の原点を形づくる読書だったことを知ることができました。本人が繰り返しいう「運命の書」であった理由がよく分かりました。



講師 菅沼 利光先生

○参加された方の感想

・椋鳩十さんは、幼少期から様々な文学にふれ、インスピレーションをうけていらっしやるのが分かりました。読書や親子で物語にふれることが大切なんだと思いました。私も運命の二冊に出会いたいと思いました。

・全ての話が心にしみ入り感動しました。今日の講座を聞いて心が晴れやかにになりました。夏バテ気味の体も軽くなつていくようです！運命の書、分かりやすく話して下さいました。有難うございました。

スポーツ等激励会・報告会

下記のとおり地方大会を勝ち進み、全国大会への出場を果たされた3名について激励会を行いました。



2025年の長野県の高校ラグビー7人制県予選が4月26日(土)に伊那市陸上競技場で開催され、飯田高校が6年ぶり6回目の優勝を飾り、7月23日から菅平高原で行われる第12回全国高校7人制ラグビーフットボール大会に同高校3年生の牧内雄也さん(阿島・寺の前)が出場。



長野県高校総体長野県大会剣道大会において内山心晴さん(佐久長聖高校3年・帰牛原出身)が個人準優勝、団体戦優勝を飾り8月に開催される全国高校総体並びに第63回北信越高等学校剣道大会に出場。



第51回長野県道場少年剣道大会(5/24)にて筒井創也さん(喬木第一小5年・伊久間・喬木剣道クラブ所属)が先鋒で出場した慈恩館道場が団体の部で3位の成績を収め、7月29日に日本武道館で開催される第59回全国道場少年剣道大会に出場。

8/1~14 第1回 公民館平和学習会 「原爆の絵」展示と朗読会

参加してくださった方々、ありがとうございました。

参加者の感想です。

・高校生の一途な取り組みが胸を打ちました。多くの人に見てもらいたい(70代)

・80年前こんなことがあったんだなと思いました。戦争がこわいです(10代)

・悲しいことが絶対にあってはならないと思うので子どもと一緒に見に来ました(40代)

・絵を見た途端、涙があふれました(80代)

10月に被団協の工藤雅子さんの講演会でも絵を展示する予定です。みなさん、平和について一緒に考えてみませんか。



展示した絵

たかぎ短歌会 長月歌会 詠草

養豚を猛暑に耐える息子らに夕餉のおかず持たせ励ます

知久 美子

棚経を一緒に聞こうと猫に言う「おいら成仏しちゃうニヤー」の声

内山 貴子

石垣の隙間に生えし鉄砲百合三十五度の暑き中咲く

小椋 りよ

音のなく須臾にきらめく遠花火車椅子にて暫し息子観る

木林 睦枝

この道がやがて片側二車線とリニアの工事を夫は説明

田中 妙子

稲穂たれ収穫の日近づけばあれこれ苦勞多きを思う

木下 寿子

真夏日が猛暑に酷暑に爆暑へと人の住めない地球とならんや

塩澤真由美

四回もヒナをかえしてつばくらめフンを山ほど残し旅立つ

市瀬 准子

しっかりと陽を受けとめて実りたるトマトの色と香り楽しむ

内山 和子

歳嵩ね出会ひし友の幾人か我が人生に彩り与ふ

元島 康子

これも老いあれも老いとて諾ひて米寿と卒寿の日々の会話は

塩澤 亀人

喬木村俳句会 葉月句会 詠草

子育ての立ち止まりし娘夕立かな
ひぐらしや暑き明日を占ひぬ

木下 瑞恵

一服の水の美味さや夏の雲
手の中に赤子の温み暑き朝

矢澤 恵美子

余念なき心は巡る盆の月
夏の風蝶が触れくる墓参り

松島 みのり

経の響き天へ届けし施餓鬼かな
無言館の裸婦の眼差し終戦日

宮島 高枝

正座して終戦の日や空青し
秋めくや街角ピアノクターン

西元 くにこ

学舎に花壇虹湧く夏休み
夏の空蟬時雨降る甲斐の森

村山 たか子

八月や我に繋がる戦禍知る
畦道を行き交ふ声もさやけしや

松葉 孝子

津波来る帰燕に訊きたし今いづこ
看護師の笑顔優しき紅葉色

市橋 ヨリ

語り部のおのれ身をやく原爆忌
遅れ来し母の影さす門火かな

吉川 てる子

お知らせ 第2回公民館平和学習会



- 演 題 「日本被団協のノーベル平和賞に学ぶ」
- 講 師 工藤 雅子 さん 日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）事務室長
- 日 時 令和7年10月18日（土） 14時00分～16時00分（13時30分開場）
- 場 所 喬木村福祉センター 多目的ホール

お知らせ

秋のペタンク交流会

日時：令和7年10月26日(日)
8:00～12:00 (雨天中止)

場所：第一小学校グラウンド

内容：ペタンク大会

申込：10月20日(月)までに上記の二次元コードよりお申し込みください。



第35回記念

喬木村駅伝大会

日時：令和7年11月16日(日)
コース：南部防災センター～芝グラウンド
7区間計 11.0km

申込：10月1日(水)～11月4日(火)までに教育委員会窓口又は上記の二次元コードよりお申し込みください。



喬木村芸術祭

日時：令和7年11月5日(水)～11月9日(日)
場所：福祉センター他

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

あのとき、このとき

公民館長



「世の中うまい話はない。知って防ごう消費生活アドバイザー」この十月、テレビでお馴染み、菊池弁護士が喬木村へ来ていただけです。北村弁護士との法律に関するチグハグなやりとりが笑いを誘う番組でした。いつも笑顔で親しみやすさがあり、話も上手であると聞きます。

中央大学法学部を卒業し、弁護士として活躍するほか、社会福祉事業団の理事や日本バレーボール協会監事も務めています。自身もバレーボール選手で中高で活躍したほか現在は小学生のバレー部監督をするなど活動の幅が広い方です。法律相談や学校事故に関する著書もあります。

もう一つ、十月には楽しみな講話があります。工藤雅子さんのお話。工藤さんは、昨年度ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会、いわゆる「日本被団協」の事務室長で、飯田市の出身でもあります。授賞式でフリードネスノーベル委員会委員長は、「被爆者たちの遺産を受け継いでいくのは、私たちすべての人間の責任だと言えます」と述べています。

昨年五月の公民館報にSNSを通じた詐欺に引っかけられないようにするために、として原稿を書きましたが、新聞には毎日のように「騙され」記事が載っています。トランプに巻き込まれない方法について学習しましょう。

被団協の活動を通じたお話から、私たちが過去を振り返り、平和でよりよく生きていくにはどうすればよいのか、その示唆を頂けるのではないかと期待しています。

今回の表紙

題字

真浄寺書道会 奥田 心優さん (喬木中学校3年)

小学6年生の頃から書道を習っています。題字は楷書ではなく行書で書きました。流れるように書くのが難しかったです。これからも書道を続けていきたいです。



写真

仲田 博彦さん (喬木カメラクラブ)

夕焼け空を背景にコスモスのシルエットを撮って観ました。



ご意見・ご感想 お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002
mail : syakai@vill.takagi.lg.jp

いよいよ稲刈りが始まった。残暑厳しい30度超えの中、稲の片付けをしている皆様には頭が下がります。
私も生まれてお米に困ったことはなかったが、父が倒れ米作りはやめてしまった。コンバインをお願いするのも高いし、買えばいいと思った矢先のお米の高騰に我が家だけではない、お米をもらっていた兄弟も戸惑っている。
こんなに黄金色の稲穂が、そして稲刈りをしている人達が恨めしく思ったことはない。

編集後記

